

第9回 「まちの活性化・都市デザイン競技」について

.....財団法人都市づくりパブリックデザインセンター

趣 旨

これからのまちづくりにおいては、そこに生き活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要になっています。

現代の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備えた洗練された表現と演出が求められ、その魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されます。

こうしたまちづくりの課題を踏まえ、本「まちの活性化・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについて広く一般から提案を募り、まちづくりに対する国民の関心を高めるとともに、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的として、平成10年度より毎年実施しており、今回で第9回目を数えます。

主催・後援

主催：まちづくり月間実行委員会
(財)都市づくりパブリックデザインセンター
後援：国土交通省、兵庫県、姫路市

対象地区

対象地区は、「姫路駅周辺地区」(約27ha)とし、「播磨の中核都市にふさわしい魅力と活力あふれる交流都市の創出」をテーマに設定しました。



対象地区の計画条件図

課 題

1. 対象地区の現況と課題

姫路駅周辺地区は、播磨地域の社会・経済活動の中心地となっています。しかしながら、JR各線が平面で貫通している上、広大な貨物ヤード等が南北交通の流れを妨げていると同時に、市街地の均衡ある発展に大きな障壁となっており、この地区の総合的・一体的な整備が急務となっております。

このような現状を踏まえ、交通の円滑化、北駅前広場の拡充、南北市街地の一体化を図るため、JR山陽本線等姫路駅付近連続立体交差事業、土地区画整理事業、関連道路事業等による面的・総合的な基盤整備が進められています。

平成18年3月には、昭和48年の「国鉄高架化基本構想」から33年の歳月を経て、JR山陽本線の高架切替が実現し、鉄道高架事業の完成も間近になっています。また、周辺4町との合併により新しい姫路市が誕生し、今後とも、魅力と活力ある都心の形成を目指し、播磨発展の核となる都市拠点施設の導入を図る「キャストイ21」を推進するなど、真に播磨の中核都市にふさわしい都心部として、その再生に向けた期待がますます大きくなっています。

2. 対象地区の提案募集内容

姫路市では、こうした課題に応えるため、市民の貴重な財産である都心部を守り、創り、育て、さらに次の世代に引き継いでいくための指針として「姫路市都心部まちづくり構想」が策定されています。また姫路駅周辺地区では、新たに発生する広大な用地を活用したまちづくり計画「キャストイ21」が策定され、ゆとりと潤いある都市環境の創造や高次都市機能の導入を図るなど、播磨地域の未来性をあらわすシンボルとして、広域交流の拠点づくりの重要な役割を担っています。

これらを前提に、本競技においては、当該地区の全体イメージ、土地利用計画、まちなみ・景観のデザイン、並びにこれらを実現するための方策などについて、考え方とデザインを募集したものです。特に下記の4つの項目について様々なアイデアの提案を求めました。

① 歩行者回遊空間のデザイン

ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、

地区全体にわたり歩行者が安全で快適に移動できる、楽しい回遊空間のデザイン。特に、JR姫路駅を中心に、東西・南北に結ぶ動線及び既存地下街との連絡動線、並びに溜まり空間の配置等。

② エントランスゾーンのデザイン

姫路の新しい顔にふさわしい緑とうるおいのある景観形成と、ときめきとやすらぎが感じられる施設計画や空間配置。現駅ビル移転後の既存地下街の活力維持・増進のため、同地下街への安全で快適な歩行者動線の確保や、地下の閉塞性を感じさせない魅力的な空間づくりへの配慮等。

③ コアゾーンのデザイン

大規模な街区を活かした憩いとうるおいのある空間として、施設計画、導入機能、外観デザイン、空間配置等。コアゾーン内各ブロック（A、B、C）・建物間を連絡する歩行者ネットワーク及び歩行者の溜まりなどのアメニティ空間のデザイン等。

④ 大手前通り、商店街活性化とデザイン

大手前通りをはじめとする主要な通りについて、城と調和した景観形成。城下町・姫路のイメージの発信、公共空間を利用した賑わいづくりなどの観点から、姫路城と姫路駅を結ぶプロムナードとしての空間整備等。

スケジュール

応募登録	平成18年9月20日（水） ～10月27日（金）
作品提出	平成19年2月13日（火） ～2月28日（木）
審査	平成19年4月4日（水）
表彰	平成19年6月（まちづくり月間）

応募件数

事前の応募登録数が 89 グループあり、最終的に提出された応募作品数は 39 であった。

入賞作品について

主な入賞作品は以下の通りです。なお本競技の内容及び入賞作品の詳細については、当財団のホームページをご覧ください。

<http://www.udc.or.jp>

審査委員会及び結果

1. 審査委員会

委員長	西村幸夫	東京大学教授
委員	石川幹子	慶應義塾大学教授
	加藤 源	都市プランナー
	岸井隆幸	日本大学教授
	北山孝雄	総合プロデューサー
	藤本昌也	建築家、関東学院大学教授
	森野美德	ジャーナリスト
	松田秀夫	国土交通省市街地整備課長
	村橋正武	立命館大学教授
	石見利勝	姫路市長

2. 審査結果

- 国土交通大臣賞** 賞状及び賞金 70 万円
森重和久 他 3 名
(株)ジイケイ設計 大阪事務所)
- まちづくり月間実行委員会会長賞** 賞状及び賞金 30 万円
北 雄介
(京都大学大学院工学研究科建築学専攻)
- 都市づくりパブリックデザインセンター会長賞** 賞状及び賞金 20 万円
加藤 潤
ROMA Design Group
- 奨励賞 3 点** 各賞状及び賞金 10 万円
前田伸人 他 2 名
(高知工科大学工学部社会システム工学科)
北川克典
(高知工科大学社会システム工学コース)
馬場有利恵 他 2 名
(高知工科大学社会システム工学コース)

国土交通大臣賞

コンセプト：「現代城市」

応募者：森重和久 他3名（㈱ジイケイ設計 大阪事務所）

■主な提案

まちなかに残る歴史資源や地域の食、匠の技、祭りや暮らし方を活かし、日本の城下町としての原風景を現代的に再現することで、国内外に誇れる魅力と活気あふれる交流都市を目指す。

①エントランスゾーン、大手前通りのデザイン

- ・大手前通りの駅～十二所前線間を『城市広場』として歩行者専用の空間として整備。
- ・既存地下商店街上部を部分的に開口し、空堀を模したサンクンガーデン化することで城市広場との空間の一体性を図ると共に、地下商店街の環境・魅力を向上。

②コアゾーンのデザイン

- ・駅からつながるデッキ、地上レベル動線、外堀を喚起させる水面が重奏的に織り重なり、既存商店街へとつながる、姫路の新しい都市風景モデルとしての立体路地空間の創出。

現代城市
Himeji Present Age Bourg

景観計画 2006年 まちの活性化・都市デザイン・緑地 姫路の中心部からまちなかへ広がるエリアをテーマとした景観計画

まちの現状と課題

まちの活性化コンセプト

Hard 都市デザインによる「現代城市」の実現

Soft 「現代城市」を完える尺牒の実現策

都市デザインキーワード (1) 風光明媚

都市デザインキーワード (2) 重奏空間

まちづくりの視点

基本方針

準拠スキーム

(1) 交通量と商店街活性化

(2) 公共施設の有効活用

現代城市
Himeji Present Age Bourg

景観計画 2006年 まちの活性化・都市デザイン・緑地 姫路の中心部からまちなかへ広がるエリアをテーマとした景観計画

現代城市開発計画 20060301

現代城市の風景

都市広場断面図 1/1000

まちづくり月間実行委員会会長賞

コンセプト：「千年都市 姫路」

応募者：北 雄介（京都大学大学院工学研究科建築学専攻）

■主な提案

今回の駅前再整備事業を今後千年のための基盤づくりと捉え、真のサステナブル・シティに向けた提案を行う。

①姫路駅～姫路城周辺の交通ネットワークのデザイン

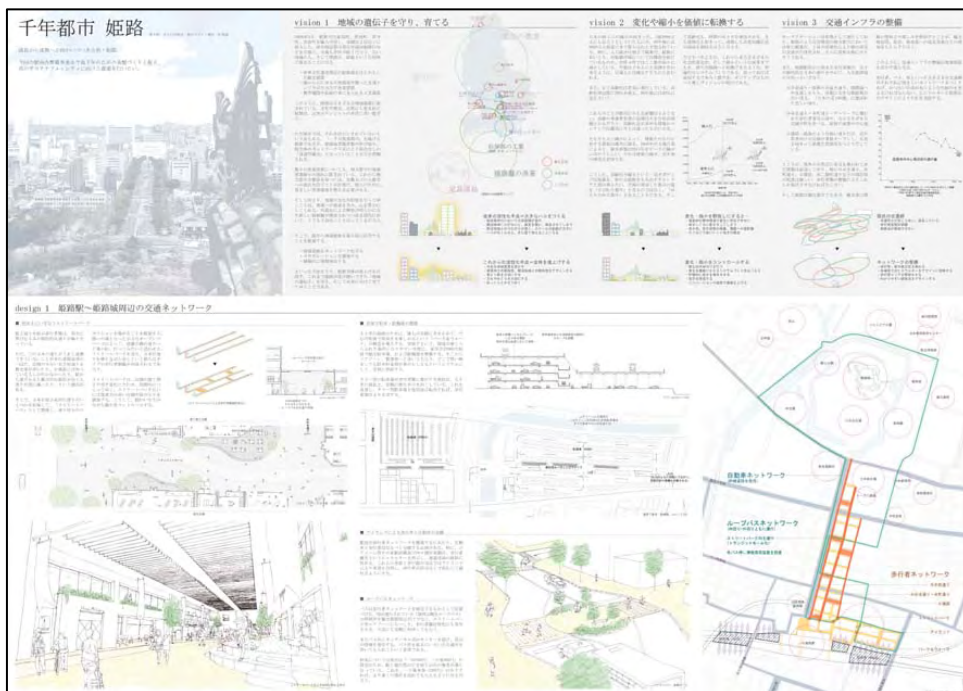
- ・東西の通りの幾つかを「ストリートパーク」として整備。高架下に駐車場を整備し「パーク&ウォーク」を実現。歩行路と道路の交点に「アイランド」を設け歩行者優先を明示。

②エントランスゾーンのデザイン

- ・中央コンコースの北出口周辺に木を植え、城まで続く「緑のリング」を完成させる。駅前広場とみゆき通りの間に広場を設け、両方に大きな吹き抜けをつくり、地下街と接続する。

③コアゾーンのデザイン

- ・地域資源のアネックスなどの機能を導入し、デザインや運営も入居主体と街づくり会社が共同で行う。単純グリッドをデザインツールとすることで、様々なスケール、自由な接続、変化への対応が可能となる。



都市づくりパブリックデザインセンター会長賞

コンセプト：「訪問者をもてなす姫路中心駅前空間」

応募者：加藤 潤 (ROMA Design Group)

■ 主な提案

①お迎えする (Sense of Arrival)

・ホームからの姫路城の眺めを確保し、姫路を訪ねた人々はこれから始まる旅への期待を高めるだろう。

②ご案内する (Pedestrian Network)

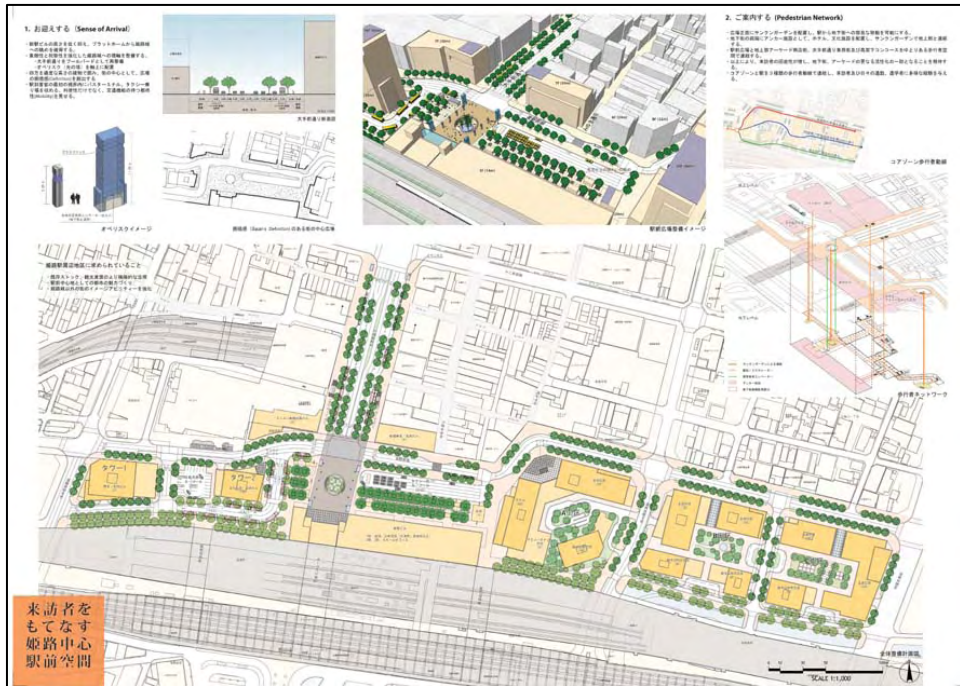
・既存の地下街は駅前広場サンクンガーデンに連結され、彼らは容易に地上から地下街に移動できる。

③楽しんでいただく (Amenity Value)

・駅前広場サンクンガーデンでは、広場で展開される人々の賑わいと活動に静けさと憩いを提供するべく、水辺と竹の庭園が地下レベルに設置される。姫路を訪れた彼らはそこで庭園を見下ろしながら友人と待ち合わせができる。

④思い出していただく (Neighborhood Identity)

・姫路の新しい駅前には、ペDESTリアンデッキの整備を避ける。姫路を訪れた彼らに地上レベルで姫路の中心の印象を与えたい。



来訪者をもてなす
姫路中心
駅前空間

